

## 令和2年度学校評価（自己評価書）

樟南高等学校

### 1 はじめに

少子高齢化が急速に進行する社会において、中学生やその保護者から通いたい・通わせたい学校として選ばれるには、学校の特色をどのように構築するかが急務である。過去12年間の評価を踏まえ、今年度は、「より特色のある学校づくり」という観点から、教育活動の成果や課題を明確化していきたい。

### 2 実施方法

今年度も引き続き、各部・学科・コース毎に年度当初に設定した評価項目について、それぞれの構成員が評価した。

評価者は管理職を除く本務職員93名。

### 3 実施期間

令和3年2月23日～3月12日

### 4 評価方法

(1) 評価の尺度：評価項目を5段階で評価する。

5： かなり成果が上がっている。計画・実践ともよい。望ましい状況である。

4： 一歩前進している。ややよい。よい方向に進んでいる。

3： 普通である。

2： 努力を要する。問題点がある。一歩後退した。

1： まったくできていない。

(2) 所見

よかった点や来年度の課題等を記述する。

## 5 結果報告

評価項目	評価者	評価結果	
		今年度	昨年度
校務分掌等の組織運営の改善	教務部	3	3
挨拶や服装等のマナーアップ	生徒指導部	4	4
個々の生徒理解と適切な支援	教育相談別室支援	4	4
生徒の能力・適性に応じた進路指導	進路指導部	4	4
難関大学への挑戦	特別進学指導部	3	3
募集定員確保のための組織運営	広報部	3	3
健康と安全の推進	保健部	4	3
トイレ、階段、特別清掃区域の清掃の徹底	環境整備部	4	4
図書館の利用促進～貸し出し本の増加	図書館部	3	4
窓口での接客対応の充実	事務部	4	5
上級資格への挑戦	商業科	4	4
基本的な生活習慣の確立	〃		
挨拶・服装指導の徹底	文理コース	4	3
積極的に授業に参加する態度の育成	英数コース	4	4
豊かな人間性の育成	未来創造コース	3	3
授業への集中力の養成	〃		
各種検定試験と資格取得への挑戦	機械工学コース	4	3
資格取得、検定試験への指導の充実	電気工学コース	3	3
三級整備士全員合格への挑戦	自動車工学コース	4	4
	平均	3.6	3.6

### 評価の尺度

- 5： かなり成果が上がっている。計画・実践ともよい。望ましい状況である。
- 4： 一歩前進している。ややよい。よい方向に進んでいる。
- 3： 普通である。
- 2： 努力を要する。問題点がある。一歩後退した。
- 1： まったくできていない。

## 6 自己評価の総括

( ) 昨年度の評価

### (1) 校務分掌等の組織運営の改善（教務部） 評価 3（3）

新型コロナウイルスの影響で行事の大幅な変更や中止などを余儀なくされたが、内容を工夫し、生徒や教職員の協力で乗り越えることができた。校務分掌の運営効率化を図り、教務システム（PC）を導入して3年目となった。使っていく中で生じた問題点や不具合への対応を必要とする状況もあったが、ソフト面の整備だけでは改善できないものもあり、ハード面の整備の必要性を感じた。

今年度大幅に改善できたのは ICT 環境である。教職員全員にタブレット PC を配布するとともに、各教室に最新鋭のプロジェクタを設置し、校内の Wi-Fi 機能も整備された。タブレット導入により諸会議のペーパーレス化が可能になったので、来年度は、これらの機器を活用した情報の共有による業務の改善を図るとともに、より効果的な教育を目指して職員の更なる指導力向上に向けた様々な研修を実施したい。

### (2) 挨拶や服装等のマナーアップ（生徒指導部） 評価 4（4）

今年度は、コロナ対策の一環として冬場の防寒着の許可に関する生徒や職員の共通理解に時間を要したものの、年間を通して全体的に大きな乱れはなく、生徒一人ひとりが節度を持って過ごせていた。頭髪服装検査については、新たに検査項目を制限する簡易検査制度を実施することにより、円滑に指導することができた。挨拶面は、「立ち止まって挨拶する生徒」が徐々に増えてきている。授業開始の挨拶も黙想から号令をかけることで、落ち着いた雰囲気スタートできている。

来年度は、SNS 利用で生じる問題やコロナウイルス感染症に起因する生徒の心因性の問題などの早期発見・解決を目標に、生徒一人ひとりに伝わる生徒指導を心掛け、保護者のご理解とご協力を頂きながら、共通理解・共通実践ができるチームを目指して努力したい。

### (3) 個々の生徒理解と適切な支援（教育相談別室支援） 評価 4（4）

保健室の利用者数は増加傾向にあるが、今年度認められた支援を必要とする生徒は 14 名と昨年度と同数であった。一昨年度からの、教頭、コース主任、支援係による「別室支援認定の言い渡し」は、生徒の意識改革や保護者の理解に貢献している。今後は、担任と教科担任・支援係との連携を深め、教室復帰に繋ぎたい。

### (4) 生徒の能力・適性に応じた進路指導（進路指導部） 評価 4（4）

本年度の求人者数は 1,761 名、そのうち、県内が 421 名で、求人倍率 17.8 倍（前年 18.7 倍）で、新型コロナウイルスの影響を受け多少減少したが、売り手市場が続いている。本校の就職者は 99 名で、学校への求人により 86 名、公務員 12 名（警察官 1 名、警察事務 1 名、海上保安学校 1 名、消防職員 1 名、自衛官 8 名）、縁故 1 名で 100% の内定率だった。各コース主任、担任を中心として生徒の能力や適性を見極め、丁寧な進路指導を進めることができた。

県外希望が39名、県内60名と県内希望が大幅に増えた。来年度も人手不足は続くと思われるが、新型コロナウイルスの経済への影響等の不透明な状況もあるので、早めの取り組みに努めたい。

進学については、文理・英数を除き、私立大学51名、県立短期大学1名、私立短期大学8名、専門学校72名と概ね良い結果であった。一方、AO入試での不合格者もあり、進路希望実現のための学力向上対策が必要である。

(5) 難関大学への挑戦（特別進学指導部） 評価3（3）

文理コースに於いては、旧帝大レベル以上、英数コースでは、広島大学等への受験者を出すことはできたが、これらは、卒業生が遺してくれた道に沿う形で実現しているように思う。ただ、これらの大学への合格を勝ち取ることは容易ではなく、1年次からの科目選択等も進路指導の重要事項であることを再確認できた。コロナの影響により授業ができない期間があり残念であった。

(6) 募集定員確保のための組織運営（広報部） 評価3（3）

今年度は、学校見学者・体験入学・私学フェア・中高連絡会・塾連絡会・入試などすべての行事でコロナ対策に苦慮した。最悪の事態を想定し、広報活動をCMやインターネットで展開できるよう4月から動き出した。パンフレットについては、県内すべての中学3年生に配布するとともに、HPから校内見学ができるサイト（スクールビュー）作成や入試検定料の郵便局・コンビニ払いを実施するなど、中学校や本校業務の効率化を図った。また、入試での密を避けるため、会場を4か所増やすなどのコロナ対策をした結果、不安な広報活動ではあったものの、昨年度を上回る受検者数となった。この一年のご協力に感謝したい。他の私立高校でも受検者数が増えているので、コロナの影響で複数受検が増えたのではないかと推測される。来年度も、入試会場を増やし、分散型を踏襲することを視野に業務の効率化を図りたい。

(7) 健康と安全の推進（保健部） 評価4（3）

新型コロナウイルス感染症拡大により、緊急事態宣言が発令されるなど全国的に緊迫している中、本校では一人の感染者もなく令和2年度を無事に終えることができた。

4月に、学年や科・コース主任などによる新型コロナウイルス感染症対策委員会を立ち上げ、登校・部活動遠征・対外試合・受験などに関する規定の作成を始め、世の中の感染状況に対応すべく様々な予防策について年間15回の委員会で検討してきた。教室にサーキュレーターを設置するとともに、工業科の協力により、食堂に飛沫感染防止用パーティション90台と足踏み式手指消毒台18台を設置し、感染予防に貢献してもらった。

教職員の共通理解・共通実践が徹底され、学校や家庭における「新しい生活様式」の実践の成果である。特に、継続的な施設・用具などの消毒・マスク着用や手指消毒の徹底・こまめな換気・健康観察個人カードの活用による日々の健康状態の把握・食堂利用者数の制限などの取り組みが良かった。生徒・保護者・教職員の積極的な取り

組みや協力に感謝したい。

また、学校薬剤師による二酸化炭素濃度測定などの教室環境検査や週ごとのトイレ清掃点検など、環境衛生面の取り組みも感染予防の要因となった。

課題として、寒冷時における防寒対策と換気の在り方があげられる。換気が徹底されるように教職員の声掛けや保健委員を中心とした休み時間の換気作業推進を図りたい。来年度も、生徒一人ひとりが「新しい生活様式」を実践できるよう、保護者と連携しながら予防意識を高めさせたい。

安全点検については、毎月の点検により、危険個所の有無を確認できたことにより、生徒の怪我や事故を防ぐことができた。施設・設備の劣化により修理を必要とする箇所が年々増加傾向にあるので、長期休業を利用しての業者による総合点検の必要性がある。

(8) トイレ・階段・特別清掃区域の清掃の徹底（環境整備部） 評価4（4）

全体的に美化への意識が高まってきている。点検活動がしっかり取り組まれトイレの清掃が徹底されていることを確認できた。また、ごみステーションへの塵出しを定期的実施できたのでよかった。係の先生方の指示のもと清掃・美化活動への取り組みが大変協力的であった。今後は、全特別清掃区域の定期的な点検を更に工夫したい。

(9) 図書館の利用促進～貸し出し本の増加（図書館） 評価3（4）

働き方改革の一環として、開館時間が17時までとなり、学習スペースとしての利用は、文理・英数コースではほとんどなくなった。それ以外は例年どおり各科・コースが各々のペースで利用している。

年2回の朝読書週間を契機に、読書に親しむ生徒が増えているので、次年度は、更なる書籍の充実を図りたい。

(10) 窓口での接客対応の充実（事務部） 評価4（5）

来訪者への挨拶、対応、言葉遣い等については、丁寧に誠意を持って取り組んでおり、接客・対応はよく機能している。しかし、今年度は、コロナウイルス感染症予防のため、来校者名簿の記入や検温などの新たな業務が加わったため、来校者が複数重なった場合の対応にやや滞りが見られたが、年度末のサーマルカメラによる大型体温測定器導入により改善された。

働き方改革により、時間外の対応が実施できなくなったので、業務の在り方の改革を来年度の課題としたい。

(11) 上級資格への挑戦並びに基本的な生活習慣の徹底（商業科） 評価4（4）

① 上級資格への挑戦については、学習意欲がある生徒が多く、日商簿記2級2名、全商3種目1級11名、日本情報処理検定3種目1級32名、医療事務2級8名と多数合格した。難易度別の班編成により進度の調整を図った成果である。来年度から新コース制となるので、更に有為な人材育成を目指して取り組みたい。

② 基本的な生活習慣の確立については、多くの生徒が、学習に取り組む姿勢・意欲に

伴い改善されており、遅刻・欠席や服装で指導される生徒は少なくなっている。来年度も全職員が生徒とのコミュニケーションをしっかりと取りつつ、根気強く指導を継続し、自分でしっかり考え、行動できる生徒の育成に励みたい。

(12) 服装、挨拶指導の徹底（文理コース） 評価 4（3）

生活面の指導の強化を学力向上に繋げようと努力を続けている。始業時及び普段の挨拶ともに良くなっているが、しっかり声に出して挨拶できるようになるには更なる指導が必要である。服装面では、少数の特定の生徒が、頭髪・爪などで注意を受けていたが、全体的には概ね良好であった。

本年度は、コロナ禍のため、コース朝礼を開けなかったこともあり、指導項目を徹底できなかったので来年度も同じ項目での指導を継続したい。

(13) 積極的な授業参加への態度の育成（英数コース） 評価 4（4）

コロナウイルスに負けないよう取り組んだ1年であった。授業の遅れや学力低下が懸念されたが、授業動画配信や面談により乗り切ることができた。ただ、コロナ禍のために、昨年までのようなペアワークやグループワーク等のアクティブラーニングや実験などによる興味・関心の深化ができず、また、コース集会による積極的な姿勢の育成にも苦慮した。しかし、昨年度、課題とした、学級独自で取り組む英単語力や漢字力などのテストや授業中の小テストなどについては、学級差や個人差が徐々に改善されつつあり、来年度も教員全体で格差の克服を目指し共通実践を図りたい。

進路指導においては、今年度も充実を図り、実績に繋がった点は良かった。

来年度も、引き続き、学力奨学生や別室登校者への指導に工夫が必要である。これらは、いずれも、個に応じたきめ細やかな指導が必要不可欠であるので、コース担当が一丸となって諸課題に取り組み、生徒自身が成果を実感できるような指導態勢を構築したい。

(14) 豊かな人間性の育成・授業への集中力の養成（未来創造コース）

評価 3（3）

「豊かな人間性の育成」においては、日頃の学校活動、授業、部活動に加えて、例年、コース独自の取り組みとして行ってきた進路意識向上のための講演会「未来塾」や職場体験学習がコロナ禍で実施できなかったことが残念であった。新聞授業、毎朝の新聞コラム配布、国際文化理解（韓国・中国・英語）、コース生徒に活躍などを伝える毎週の「コースだより」などを通じての豊かな人間性の育成に努めた。

また、本年度初めてマレーシアとラオスから2名の留学生を迎え入れ、国際的な交流の機会を得た。留学生の発表などは、生徒の視野を広げる好機となった。

「授業への集中力の養成」については、魅力ある授業運営が最大の課題である。様々なツールを駆使して、学習意欲に欠ける生徒、居眠りの多い生徒、授業中の集中力に欠ける生徒を、どうやって授業に引き込むか、教員の腕の見せ所であろう。興味深い、知的好奇心をくすぐる授業であれば、生徒は自ら目を向け集中するはずである。

社会で通用する豊かな人間性を育成し、やるべきことに集中する力をつけさせて、よりたくましく、頼もしい人間に成長させられるよう努力したい。

(15) 各種検定試験と資格取得への挑戦（機械工学コース） 評価4（3）

資格取得への挑戦の目安の一つである全国工業高校ジュニアマイスター顕彰制度において、昨年度出なかった「ゴールド」に今年度1名、「ブロンズ」が7名認定された。危険物取扱者乙種4類では、昨年の3名から8名に増え好結果となった。

新たな試みとして、1，2年生全員でリスニング英語検定に挑戦した。英語科のご協力のおかげで多くの合格者が出たので、来年度も継続して実施したい。全体的に資格取得へ前向きで意欲的なので、来年度に繋いで一層努力していきたい。

(16) 資格取得、検定試験への指導の充実（電気工学コース） 評価3（3）

全国工業高校ジュニアマイスターにおいて、3年生が「ゴールド」1名、「ブロンズ」が5名の計6名が取得した。2年生は「ゴールド」と「シルバー」が各1名であった。第二種電気工事士は、コロナ禍のため前期試験が中止になり、3年生が3名、2年生が1名と数は出なかった。

今年度は、生徒の要望で電子機械組み立ての技能検定に初めて取り組んだ。試験対策など手探りの状態であったが、今後を活かしたい。

資格取得への意欲と取り組みが比例していない者もあり、合格する「喜び」や「手ごたえ」を感じさせつつ、上級資格へ挑戦する意識を持たせるための指導方法の更なる工夫・研究を継続したい。

(17) 三級自動車整備士全員合格への挑戦（自動車工学コース） 評価4（4）

全国工業高校ジュニアマイスターにおいて、「ゴールド」を1名、「シルバー」を3名、「ブロンズ」を2名が取得し、良い結果を出してくれた。

三級整備士については、コロナ禍の影響で試験対策が十分に実施できなかったが、夏季休業中の特別補講や自宅学習課題などの新しい取り組みによって生徒たちの資格取得への意識が継続し、合格率83%と高い数字を残すことができた。養成修了者全員が資格取得に向けて意欲的に取り組めるよう、専門的な知識の定着を目指して学習習慣を更に深化させ、進路意識を高く維持できるよう指導していきたい。

## 7 まとめ

本年度の教育目標には、以下の5点が掲げられている。

- (1) 建学の精神「博文約礼」と、校訓「進取 友愛 誠実」の具現化を図る学校づくりに努める。
- (2) 「私学の教職員」であることを強く意識し、一人一人の生徒を大切にし保護者の期待に応える信頼される教職員により、豊かな発想に基づく創造性に富んだ学校づくりに取り組む。
- (3) 充実した授業実践により、確かな学力の定着を図り、生徒の進路希望実現を支援

する。

- (4) 学校の「不易流行」を熟慮し、バランスの取れた学校改革に取り組む。
- (5) 一人一人の生徒や保護者に向き合う特別支援教育を推進する。

さらに、教育目標を実現するための努力目標を次の8点定め、本年度の教育の指針とした。①特色のある学校づくり ②授業の充実と学力の定着 ③高いレベルで文武両道に取り組む生徒の育成 ④確固たる目標を持って上級学校や職場への進路希望実現を目指す生徒への積極的支援 ⑤基本的な生活習慣の確立と心身共に健康な生徒の育成 ⑥教育環境の整備と美化 ⑦創意工夫のある広報活動の展開 ⑧新たな時代の学校改革の推進

この8点の観点により、本年度の教育活動の総括をしたい。

努力目標の①は「特色のある学校づくり」である。生徒指導部が挨拶・服装のマナーアップを目標に掲げ、普通科の各コースや商業科で豊かな人間性の育成や挨拶・服装指導の徹底等に取り組んできた。一部に服装や頭髪の注意を要する者があるものの、大多数の生徒は基本的な生活習慣が確立されている。部活動生に始まった「立ち止まっての挨拶」は、部員意外にも伝播しつつある。文武両道を機軸にしている本校の部活動生全員が、リーダー意識持ち、特色ある校風の醸成に貢献してほしい。これが入学者の増加に直結する大きな要因の一つであることを再認識させるよう、教師はたゆまぬ声かけに努めたい。

特別支援教育については、「個々の生徒理解と適切な支援」を項目に挙げ、教育相談係を中心に取り組んできた。クオリティルームでのきめ細かな指導に頼るところではあるが、いかにして生徒の目的意識を醸成するかが教室復帰へのポイントになる。係と担任や教科担任との連携や生徒とのより深いかかわりが不可欠になる。

未来創造コースでの新聞活用を始め、スキットコンテストや中国・韓国を学ぶ国際文化理解などの様々な取り組みは本校教育の特色の一つと言える。今年度は、コロナ禍により、職場体験を始め、未来塾やスキットコンテストなどコースを代表する行事が開催できず残念であった。

世の中のニーズに対応する豊かな人間性の育成に資するために、平成元年から続くボランティア活動を始め、商業科の「樟南マルシェ」や工業科のプランター置台設置などの地域貢献活動とともに、未来創造コースの取り組みの更なる充実に期待したい。

②の「授業の充実と学力の定着」については、英数コースが「積極的に授業に参加する態度の育成」を目標に、これまで、アクティブラーニングなどにより、授業への積極的な参加と理解力の向上を図ってきたところであるが、今年度は、コロナ禍の影響で従来のようなペアワークやグループワーク等による興味・関心の深化や、コース集会による積極的な姿勢の育成ができなかった。しかし、昨年度、課題とした、学級



独自で取り組む英単語力や漢字力などのテストや授業中の小テストなどについては、学級差や個人差が徐々に改善されつつあり、来年度も教員全体で格差の克服を目指し共通実践を図りたい。また、英単語力や漢字力テストなどへの取り組みも充実しているクラスが増えておりこれらが進路実績に繋がっている。今後も、早期目標設定とシラバス活用により、生徒が自ら積極的に学習する習慣を確立するための研修の機会設定を図りたい。また、未来創造コースが「授業への集中力の養成」を評価項目に挙げ、授業に視聴覚教材を活用するなどの工夫を行っている。生徒の意欲を向上させることが集中力の養成には不可欠であり、意欲の向上には目標設定が重要である。コース全体として生徒の目標実現に資する具体策の構築が急務であり、それを具現化する教師の力量の増強に努めたい。

③の「高いレベルで文武両道に取り組む生徒の育成」については、進路指導部が「生徒の能力・適正に応じた進路指導」を、特別進学指導部が「難関大学への挑戦」をそれぞれ評価項目に掲げた。就職については、普通・商業・工業の全科で99名が希望した。うち、学校への求人票により86名、公務員12名、縁故1名で100%の内定率だった。ただ、コロナ禍の影響により企業の業績不振が報道されているので、今後の社会情勢を見据え、求人状況を把握した対応が求められる。進学については、文理・英数を除き、私立大学51名、県立短期大学1名、私立短期大学8名、専門学校72名と概ね良い結果を挙げた。

特別進学部については、文理コースに於いては、一橋大・大阪大・九州大など難関大への合格者を出すことができた。英数コースでは、広島大などの受験者を育成できた。ただ、これらの大学への合格を達成するのは容易ではない。医・歯・薬系の希望者増も手伝って、希望と学力のギャップを痛感させられる結果に終わった者も少なくないので、志望する進路の早期設定と、その実現に資する志望大学の難易度を掌握し、バランスのとれた基礎力の定着が根本であるという意識の醸成が不可欠である。そのためには、生徒が高校生としての学習態勢を構築するための機会の設定が必要である。

また、鹿大医学部地域枠など国公立大学推薦入学制度への対応策構築も急務である。

④の「確固たる目標を持って上級学校や職場への進路希望実現を目指す生徒への積極的支援」については、普通科未来創造コースや文理・英数コースで、これまで、進路指導のスペシャリストによる講演や先輩の講話を聴く機会を設け、生徒の目標設定の一助となっていたが、コロナ禍により、今年度はほとんど実施できなかった。また、未来創造コース、商業科、工業科の職場体験も中止を余儀なくされた。ただ、進路指導部主催による、学年別に年1回実施される進路ガイダンスは実施することができ、生徒は希望する大学や専門学校などの講師から具体的な説明を受け、進路の探求に活用することができた。

商業科では、受検級の難易度別班編成により、日商簿記2級、医療事務2級や全商3種目1級などの上級資格に合格している。来年度の1年生から、新たなコース制に

より、国公立大への道の開拓も本格的に始まるので、担当教諭と生徒が一丸となって取り組み成果を挙げたい。

工業科においては、機械・電気・自動車の全コース合計で全国工業高校ジュニアマイスターの「ゴールド」を4名・「シルバー」を4名、「ブロンズ」を14名が取得した。機械工学のリスニング英語検定や電気工学の電子機器組み立て技能検定など新たな挑戦には期待が持てる。また、自動車工学の、3級整備士国家試験合格率83%はコース目標の100%達成を予感させてくれる。

今後も、すべての科・コースにおいて、3年間を見通した進路意識の醸成に努める必要があり、意欲不足の生徒をどのように巻き込み相乗効果を生み出すかが課題である。生徒が自らの将来を見据えた資格取得の重要性を自覚するよう支援するとともに、部活動顧問との連携を密にし、長期休業中や放課後などの指導を充実させたい。また、日頃の授業や教材を更に研究し、専門的な知識の定着を目指して1年から段階的に指導していきたい。

⑤の「基本的な生活習慣の確立と心身共に健康な生徒の育成」については、保健部主導の日々の健康観察により健康状態の把握がなされており、感染症予防や精神的な悩みの解消も継続的努力により管理がしっかりとされている。

新型コロナウイルス感染対策のため、教室・体育施設・寮などの消毒が恒常的になされ、感染を防止できたことは評価に値する。今後も、換気・手洗い・うがいを励行させたい。

性教育や薬物乱用防止講座は、コロナ禍により中止となったが、救急法には、生徒が積極的に参加し、緊急時への対応力を高めることができた。

悩み相談で保健室を利用する生徒が散見されるので、保健室とクオリティルームとの連携を図り、心の健康に資するサポートの在り方の研究を深め、楽しく学べる環境づくりに努めたい。また、生徒が、自ら基本的な生活習慣を確立することにより、心身の健康の維持ができるよう努めさせたい。

⑥の「教育環境の整備と美化」については、環境整備部が目標の一つとして、環境の整備・管理を掲げた。清掃点検の実施により、トイレ清掃が徹底されているとの報告がなされている。また、特別清掃区域については、担任による清掃指導が図られ概ね良好である。ゴミステーションへのゴミの持ち込みに課題が指摘されているので、分別などについて意識の徹底が求められる。

⑦の「創意工夫のある広報活動の展開」については、広報部が「募集定員確保のための組織運営」を項目に掲げ、定員確保に努めた。ただ、コロナ対策のため、全ての行事に新たな対応が求められ、苦慮した業務もあったが、ほぼ予定通りの業務を遂行することができ、全職員の努力により、入学者の増に繋がった。来年度も同様の対応が必要とされるであろうから、最悪の事態を想定しながら、受検者の確保に努めたい。

最後の⑧の「新たな時代の学校改革の推進」については、創意工夫ある教育活動と

して地域貢献を推進してきた30年を超える特別養護老人ホームでの女子ボランティア活動は、コロナ禍のために休止を余儀なくされた。マックスバリュ武岡店への木製ベンチなどの提供や学校周辺の清掃活動を行う男子ボランティア活動など、素晴らしい活動が展開されている。地域貢献活動として定着していた「樟南マルシェ」も、コロナ禍により中止となったので来年度に期待したい。

国際理解を目指した中国語・韓国語や英語に関する総合的な探求も新たな時代を見据えた教育活動であり、今後も拡充が望まれる。また、今年度初めてマレーシアとラオスから2名の留学生を未来創造コースに迎え入れたことは、生徒の国際交流の意識醸成に大きく貢献した。

今後、「働き方改革」を踏まえた特色ある教育活動を推進するためには、効率的な業務遂行が必然となる。その一環として、今年度、全教職員にタブレット PC が配布され、諸会議のペーパーレス化と効率化が可能になった。また、各教室に最新鋭のプロジェクタとスクリーンが設置されたことにより、一堂に会することなく各教室で、Zoom により、音声だけでなく映像による式や集会を行えるようになった。さらに、Wi-Fi 機能が整備されたことにより、授業への ICT 活用推進も図れるようになった。

これからは、「自立」する生徒の育成を目指して、ICT を駆使しつつ、創意工夫に充ちた樟南独自の教育活動を展開したい。

今、進学に係る高校教育は、「高大接続改革」を中心に大きな転換期を迎えている。この1月は、従来の「大学入試センター試験」に代わり「大学入学共通テスト」が実施された。

情報化社会の急速な進展や少子高齢化・グローバル化などにより、現在の中高生が社会で活躍を求められる頃には、現代社会は、我々の想像をはるかに超えるようなものになっている可能性がある。このような時代においては、「自ら問題を発見し、それを他と協力して解決する資質や能力が求められる」ということが、この改革のベースになっており、この共通テストで、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」をバランスよく評価することが求められているとされている。一時取りざたされた、国語や数学での記述式問題の導入は見送られ、マーク式のみとなったが、思考力・判断力・表現力などを一層重視した評価を可能とするような出題形式が予測される。高校生活において、自らの力で考えをまとめたり、相手が理解できるよう根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力を培うことを常に意識しておくことが求められている。

英語については、「読む」「聞く」に加え、「書く」「話す」技能を測るため、民間の検定等の活用が検討されていたが、その活用は延期された。ただ、共通テストでのリスニングの配点比率が大幅に増加するので、しっかり対応しつつ、今後の動向に注視したい。

新学習指導要領の総則では、全教科について、教科ごとに「何ができるようになるか」を明確化し、生徒が主体的・対話的に参加することにより、深い学びを得られるような授業に改善しなければならないとしている。そのため、教員には、生徒の思考を深めるため、発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、必要な学習環境を積極的に設定していくことが求められる。

また、ポートフォリオに代わり「キャリアパスポート」が導入され、来年度の新入生は、中学校での活動記録を記した「キャリアパスポート」を携え入学してくる。高校では、生徒全員に年度当初の目標を設定させるとともに、それぞれの目標に沿った活動を詳細に記録させておく必要がある。従って、我々教員には、生徒たちの卒業後の進路を視野に「キャリアパスポート」の蓄積が求められている。

これらを念頭に、進学希望者については、早期に目標設定をするとともに、入試改革を踏まえた各コース独自の学習法の研修を行い、教科バランスの維持を図ることが急務である。特に、未来創造コースでは、新聞活用、スキットコンテストやスピーチコンテストなどに加えて、職場体験や未来塾と多彩で充実した取り組みが予定されているところであり、総合的な探求の時間を活用した国際文化理解にもグローバル化という観点から期待が大きい。また、商業科でも、来年度入学生から国公立大への道を目指すコースを視野に、新コース制が導入されるので、進路選択の幅が広がり、より魅力ある科への飛躍が見込まれる。

就職希望者についても、就職後に有用となる資格取得や技術の修得を目標に各種検定や実習への積極的な取り組みが期待されている。

今後は、教育課程の編成や教育内容の新たな構築など、新学習指導要領への移行を視野に入れた取り組みが必要となる。工業科とも連携しながら、教育内容・方法のリニューアルを図り、新たな総合型選抜（旧 AO 入試）を活用しての国公立を含む大学進学や公務員への道を構築するなど、多様化する生徒や保護者のニーズに答えてくれる学校という社会的評価を確立したい。そのためには、在校生が「がんばれば感動」というモットーの具現者になることが不可欠である。その実現を可能にする牽引者となるのは、教職員にほかならない。生徒により多くの感動を与え、誰もが通いたくなる名門校の創造を目指し、全職員による共通実践を継続することが肝要である。